

【学会見聞録】

第 44 回日本基礎老化学会大会（大府）オンサイト見聞録

大山 恭司

東京医科大学 組織・神経解剖学

コロナ禍が続く中、2021 年 6/12～6/13 に新しいかたちで日本基礎老化学会大会が開催された。私個人にとっては、第 36 回大会（2013 年）以来、実に 8 年ぶりの参加であった。東京都の非常事態宣言下、オンライン会議に気分が乗らずいろいろな学会参加をキャンセルし続けていた私は、久しぶりに学会オンサイトで老化研究者と直接会って話をできる喜びに満ち溢れながら新幹線で名古屋へ向かった。その期待に応えてくれるエキサイティングなミーティングが始まる前日のことであった。

学会初日。オンサイト参加者の人数が少なかったことは否めない。私の知り合いも含めて、出張制限がかかっているためにやむを得ずオンライン参加となった方も多数いらっしやると聞いた。大きな会議室にソーシャルディスタンスで並べられた椅子。ぽつぽつと好きな位置に座る参加者。丸山大会長の開会挨拶が始まった。2 会場のうち、別会場にいた私はオンラインで見た。しかし音が聞こえない。対応に追われるスタッフ、一部聞き逃したが、こうして第 44 回大会が始まった。オンライン参加を避けつづけてきた私と違い、参加者のほとんどはすでにオンライン発表に熟達しており、スムーズな会議進行であった。唯一の問題はスライドの画像解像度、マイク音が会場内でやや聞きにくいことであった。オンライン参加している知り合いからは、会場スライドをカメラで映しているの画像解像度が良くないと聞いた。しかしながら、これらの難点をもってしてもお釣りがくるくらい内容が濃くレベルの高いミーティングであった。

シンポジウムでは、日本、アメリカ、オランダ、ドイツ、オーストラリアからリアルタイムで招待演者の講演を聴いた。多彩かつ奥の深い内容であった。具体的には、直鎖状ポリユビキチン鎖と疾患 [岩井先生 (京大)]、寿命調節シグナル伝達系としての IRS 修飾タンパク質 [高橋先生 (東大)] といった生化学的研究、オートファジー抑制因子 Rubicon と疾患 [吉森先生 (阪大)]、ミトコンドリアに存在する代謝系リプログラミング因子 YME1L による老化抑制 [Langer 先生 (Max Plank 研究所)] といったオルガネラ研究、長寿型 SIRT6 アレル [Gorbunova 先生 (Rochester 大)]、S- アデノシルメチオニン代謝による寿命延長効果とその臨界期 [三浦先生 (東大)] といった寿

命制御遺伝子に関する研究、そして老化細胞に焦点をあてた、老化細胞誘導による疾患モデル作製と老化細胞除去薬による治療 [Demaria 先生 (ERIBA, UMCG)] が議論された。時差にもかかわらず、老化研究者のグローバルネットワークが見事につながった瞬間だった。これが新しいかたちの日本基礎老化学会大会だ。一流学術誌に掲載された論文に加えて未発表データも出てくる。すごい迫力だ。まさにこれが一流研究者。このチャンスを逃すまい。自分にできることは、質問して彼らからサイエンスを教わることだと思い、徹底的に質問した。オンサイトの強みはここにあった。オンラインで見ている参加者がいることなど忘れてしまい、恥も外聞もなくわからないことはすべて聞いた。わからないまま退室するよりマシと聞き直った。

ランチョンセミナーでは細胞老化と SASP について [本山先生 (相山女学園大)]、高齢者のフレイル対策として、特に転倒事故予防へ向けて、歩行運動機能をモニターする新規デバイスの開発 [赤津先生 (名古屋市立大)]、アフタヌーンセミナーでは、脳と腸内細菌の相関 (脳腸相関)。認知機能維持における腸内細菌叢や代謝産物 (酢酸、乳酸) の重要性が解説された [岩淵先生 (森永乳業)、佐治先生 (長寿研)]。公式な質疑応答時間はなかったが、講演後に質問して、既知の事実と未解明の部分について頭の整理をさせていただいた。これもオンサイトでの大きな収穫であった。

休憩時間中もオンサイト活動を続けた。普段はなかなか話しかけるのが難しい理事や座長の先生方、そして来年の大会長である細川先生にもお話をさせていただいた。私の発表 (プログラム細胞老化) にも興味を示してくださり、口演時の質疑応答、休憩時間に十分な議論、ご指導をいただいた。

スタッフの方々のご尽力もあり、きめ細やかな学会運営がなされた。閉会式では若手奨励賞、ベストプレゼンテーション賞の授賞式もとり行われた。こうして、直接会って話すミーティングが終わった。帰京してからも、話をした先生方に加えて、驚くべきことにオンライン参加した方とも交流を深めている。実際、この寄稿文の執筆依頼のお話をいただいた時も、オンサイト参加者、オンライン参加者の方々から独立して同時にお話をいただいた。予想することなど到底無理な新たなかたちの成果であった。

オンラインとのハイブリッド開催という新しいかたちで、学会オンサイトを最後までやり抜かれた丸山大会長には、言葉だけでは感謝仕切れない。とても楽しい学会であった。是非、来年も参加して、多くの方と会って議論したいと考えている。

連絡先：大山 恭司

〒160-8402

東京都新宿区新宿 6-1-1

TEL : 03-3351-6141 (内線 232)

E-mail : kyohyama@tokyo-med.ac.jp